

アトリエ 琉游舎 だより 128号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2022年4月6日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>



墓穴を出づ

- 「ひきがえる穴を出づ」。春の季語だそうです。冬眠から目覚めたヒキガエルが穴を出て動き出す三月下旬の頃です。穴を出たヒキガエルは雌を求めてあの野太い声で鳴きはじめます。
- 生き物が冬ごもりから動き出す頃は24節気の「啓蟄」が有名です。3月5日頃になります。暖かくなり始め虫たちが地中から顔を出し、畑を耕すとミミズにお目にかかることができます。
- 「墓穴を出づ」は啓蟄から少し暖かくなった頃のようなようです。3月下旬、20度を越えた初夏のような気候の翌日、私は今まさしく穴から起き出してきたらしきヒキガエルに遭遇しました。
- コリーナの蓮池を半周する道路の南側は小高い雑木林、道路を挟んで蓮池になります。その道路を山側から池に向かってゆっくりゆっくり横断する物体を見つけました。遠目に茶色のお椀を伏せた形状のものがもっこり置かれている様子なので、動物の糞ではとっていたところそれが左から右へとソロソロと動いていきます。ちょっとビクッとしました。とぐろを巻いた蛇にしては動きが変、リスやネズミにしてはあまりにも緩慢な動き、恐る恐る近づくと体長10cmほどのヒキガエル。私に気づいたからか、ぴたっと動きを止めてしまったのです。
- 何故止まったのか。私に気づけば池に向かって逃げるはずです。恐らく昨日の暖かさで穴から出て活動を始めたものの、この日は10度前後でアスファルトの道も冷たいままでした。変温動物の墓蛙は冷たい道路に熱を奪われ途中で動けなくなってしまったのではないのでしょうか。このままでは車に轢かれるか、猫やカラスに襲われてしまいます。池に入って繁殖活動をしなれば彼の子孫はここで途絶えてしまうでしょう。私はつかむ勇氣はないので足でそっと墓蛙の体を池の畔の土のところまで押しやりました。初夏に彼の野太い声を聞きたいものです。
- 莫・暮・墓・幕・募・慕、どの字も墓（ひきがえる）に似た漢字です。「莫」の字のしたに「日」「土」「巾」「力」「心」を足しています。「莫」は「かくれる、かくす、ない」と言う意味です。日が隠れると日暮れです。土の下に隠れるとそれはお墓です。布きれで囲い隠したところが幕です。虫が隠れると墓となります。そこは一時避難や再生のための待機場所、そして新たな活動のために力を蓄える所や状態を示している漢字群に見えてきました。
- 地下壕に逃げ込んだまま未だに閉じ込められた人達があります。出るに出られないままの日々。暮れた陽はまた昇るのか。墓のように穴を出て春を迎えることができるのか。そのまま土の下の墓となってしまう可能性だってあるでしょう。「墓穴を出づ」。その日が現実となり地上で春を迎えられんことを。そこが、人々を穴に追い込んだ首謀者の墓穴にならんことを。

読書会

4月12日26日
(火)13時半

「阿弥陀経」は4月で終了します。5月からは法華経を読みます。2回目の法華経読書会です。分かり易く楽しい会です。皆さんの参加をお待ちしています。

写経会

5月1日(日)
13時半

般若心経・自我偈・観音偈の手本を用意しています。初めての方もすぐにできます。

4/14 木	13時半	サラトガ本線(135分)	ゲーリー・クーパー、イングリット・バークマン主演。母親の復讐にパリからやって来たクリオ、そこで出会ったクリントと恋に落ちるが、クリオを残し一人サラトガに向かう。
-----------	------	--------------	--

4月21日28日5月5日12日の映画会はお休みします

今回の狂言綺語を書いている4月初めは、諏訪で御柱を引いているはずでした。7年目毎の寅と申の年に行われる諏訪大社の御柱祭に氏子の孫たちのお守りを兼ねて御柱を引いている予定だったのです。しかし今年は新型コロナの終息が見通せない中で、4月に行われる3日間の山出しは氏子による曳行を断念し、トレーラーなどの車両で御柱を運搬することとなりました。1000年以上の祭りの長い歴史で初めての事態とのことです。テレビでお馴染みの山の斜面を滑り落ちる「木落とし」、雪解け水の川を渡る「川越し」などの勇壮な神の示威が見られなくなることは残念です。5月に行われる里曳きは例年通り人力で行うかどうかはまだ未定のようなのですが、もはや今年の御柱祭は「お祭」の体裁は整えても「神事」と言えなくなってしまったのではないのでしょうか。

6年前の御柱祭は4月5月の併せて6日間、私は山出しから里曳きそして諏訪大社上社本宮一の柱を立てるところまでを氏子の法被を着て末端ながら神事を目の当たりにすることができました。僧侶の私が六日間もかけて神事に参加し見聞した大きな動機は、古来日本人は御柱祭に何を願い何を実現しようとしたかを知りたかったからであり、日本人の信仰の源に触れることが出来るのではと考えたからです。米の生産高が国力の基準であった日本では、人々の願いは五穀豊穡や国土安寧などで、それほど複雑多岐に渡るものではなかったはずですが。ところが四本の柱を四つの社殿の四隅に立てるために、人々は山から里まで合計16本の樅の木を荒々しくも原始的な方法でひきづり下ろしてくる神事は、穏やかで平和的な農耕風景とは異質なものに私には見えてしまうのです。結局6日間の神事を見物しても、にわか氏子で部外者の私には、御柱の神事に籠められた人々の願いを感じ取ることはできませんでした。そこに私は、奉納や生贄などの見慣れた神への慶祝の行いを観ることが出来なかったのです。ただ黙々と丸太を山から引き吊り下してくる行為に私が観たものは「宇宙の大いなる力(御柱)によって、荒ぶる魂を四か所の捕りこめ所(社殿)に封じ込めなければならない」という恐れや慰撫の発露と強固な意志です。それは6年間は効力が保たれる、だから御柱祭は7年毎におこなわれるのでしょ

う。信仰は願うことから始まります。願いがなければ何のために私たちは神仏を拝み供養を行じ祈禱をするのでしょうか。願いがあって初めてそれを叶えようとの誓いが生まれ、強い意志のもと行いに向かうことが出来るのです。「願い・誓い・行う」ことです。願いを起こすことが「発願」。阿弥陀経では極楽浄土の往生を叶えるために「已発願 今発願 当発願 欲生阿弥陀仏国者 是諸人等 皆得不退転 於阿耨多羅三藐三菩提(過去・現在・未来に願を発して阿弥陀仏の国に生まれんと欲せば、この人たちすべて悟りを得て煩惱の世界に戻ることはない)」と発願の意義を語っています。「願」は誓願や本願などとも呼ばれ、それは仏や菩薩だけの願いではなく、私たちひとりひとりが独自の「願」を持つべきものなのです。毎日楽しく豊かに心安らかに過ごしたいと願えば、今日自分は何をすればよいか自ずとわかるでしょう。それが今日の生活の誓いです。その誓いの通りに行うことが日々を生きることです。それを毎日繰り返せば必ず安らぎの処に辿り着けます。そこは浄土であり仏として生きる所なのです。だから仏の願いは私たちひとりひとりの願いでもあるのです。

私たちの生活は各々異なるものですから、各自の願いは唯一無二のものとなり、日々の行いも独自の行いとなります。宗教は究極、個人的な行いに帰すると私が考える所以です。但し、独自の願いを支えるための共通の願いが必要です。これが「四弘誓願」です。仏教徒はみな四弘誓願のもとに自らの願を立てるのです。宗派によって多少の文言の違いはありますが、願いはみな同じです。そして法要の最後に必ず唱えられるものです。日蓮宗では「衆生無辺誓願度 煩惱無数誓願断 法門無尽誓願知 仏道無上誓願成(全ての生きものを救うことを誓います。無数なる煩惱を断つことを誓います。仏様の教えの全てを知ること誓います。仏道に入り成仏することを誓います。)」。仏教徒である私はこの4つの願の実現のために「願い・誓い・行う」日々を過ごしているのです。この願に根ざさなければ、私たちの願いは容易に欲望に転化してしまうでしょう。私たち仏教徒が四弘誓願を自分自身の「願」のより所とできるのはお釈迦様の「願」に「信」を置いているからです。自分の足下を照らす自灯明(願)を頼りに、お釈迦様の指し示す法灯明(願)に向かってたゆまなく歩み続けることができるのも、それはお釈迦様の願い、つまり「すべての人を安らぎのところへ導く(すべての人を仏にならしめる)」との願いを信じているからです。これが信仰です。宗教的日々を生きるということです。これは宗教儀礼や信仰の証を毎日表現することではありません。日々の安らかな生活を各自が願いのままに生きることです。ところが「正義の実現」というような特定の願い(欲望)が私たちの日常を支える根拠になったとたん、宗教的日々は困難なものになります。西方での戦争や新型コロナウイルスとの戦争も、互いの正義を振りかざせば勝負の決着が必要になります。戦いは自分の欲望の実現のために他者の願いを奪うことなのです。

私は人々が御柱に仮託した願いを“御柱は荒ぶる魂の捕りこめ所”と認識しても、どこにもそれを記述した文献がなければ妄想とされるでしょう。御柱祭の長い歴史の中でこの神事を始めなければならなかった切実な願いが不明となり、単なる祭りとなってしまったのなら、私は6日間の曳行を通じて御柱に願いの真意を問いたたす必要があったのです。私の宗教的日々(信行)はインドを源とする釈迦の智慧と、この心身に脈々と伝わる日本の土に生きた人々の記憶によって支えられています。私は天皇中心に整理された国家神道の系譜ではない、原日本人の信仰の記憶がこの御柱祭に引き継がれていると確信します。新型コロナに負け 琉游舎:戸井 出琉・恭子 たから曳航を辞めたというような勝敗の世界に御柱があるではありません。問い合わせ:0287-53-7848 08033508152 御柱は私たちの願いのためにあるのです。その願いは大いなる宇宙の真理 矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850 (神や仏)への願いであり誓いです。それを私たちは次に伝える義務があるのです。メール:toi10lizuru@outlook.jp